

令和6年度 東村山市立学校 自己評価シート【2月】												東村山市立東村屋か第二中学校 校長 荒木 忍														
学校の教育目標 (育成を目指す資質・能力)		○自ら学び考え行動する人になろう（自主） ○広く他を思いやる人になろう（豊かな心） ○心身を鍛え健康な人になろう（健康）										その他 特記事項														
目指す学校像（ビジョン・ミッション） 普遍的かつ個性的な文化の創造と豊かな社会の実現を目指し、平和的な国家及び社会の形成者として自主的精神に満ちた健全な人間の育成と、日本の歴史や文化を尊重し、国際社会に生きる日本人の育成を目指す。また、自分を大切にし、他の人の大切さを認める生徒を育成する。																										
【目指す学校像】 ①生徒が様々な場面で自主的に行動し、達成感や充実感を得ることのできる学校 ②自尊感情や自己有用感を高めながら、生徒の可能性を最大限に伸ばすことができる学校 ③保護者や地域社会の期待に応え、生徒と教師の信頼関係が築かれている学校					【目指す教師像】 ①自尊感情や自己有用感を高めながら、生徒の可能性を最大限に伸ばすことができる教師 ②生徒の実態や状況を理解し、個に応じた指導ができる教師 ③チーム二中として職務に専念し、保護者や地域に信頼される教師					【目指す児童・生徒像】 ①目標に向かって自主的に学び、積極的に行動できる生徒 ②自他ともに尊重し、広い視野から多面的・多角的に考えることのできる生徒 ③心身ともに健康で、自分の目標や可能性に挑戦できる生徒 ④集団や社会の一員として自覚し、地域社会に貢献できる生徒																
領域	中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	取組指標（教職員の取組）	取組自己評価				成果指標（児童・生徒等の実容・成果）	成果自己評価				成果指標（保護者の理解・成果）	成果自己評価				中間申告（分析・修正案）	最終申告（分析・改善策）						
学習指導	学びの本質として重要な「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指し、ICTを効果的に活用した授業を工夫・充実するとともに、質的・量的に授業を改善することで、生徒一人一人の学習意欲を高め、学力を向上させる。	・個に応じた指導を充実させ、基礎的・基本的な学習内容を確実に定着させる。 ・知識や技能を身に付けるとともに、主体的に考え、表現し、判断する力を育む。 ・タブレットやICT機器の活用等の研修を進め、効果的に教育活動への活用を図る。	すべての授業において、生徒が身に付けるべき力や知識について見直しをもてる授業展開を行う。 東村山スマートスクール構想を確実に推進するため、教職員にタブレットやICT機器等の活用する力を身に付けさせ、教育活動で活用させる。 話し合い活動や学び合いを基盤とした、生徒が主体となる学習活動等を工夫した授業を行う。	すべての授業で「本時の目標」を板書したり、大型提示装置等で生徒に示したりする。授業観察及び自己申告等において取組状況を把握する。 タブレットや大型提示装置、デジタル教科書の活用に資する校内研究を9月までに2回以上行う。単元に2回以上タブレットを活用させる。授業観察及び自己申告等において取組状況を把握する。 授業や特別活動の場で、生徒が主体となって活動する場面を設定し、思考が深まる工夫を行う。授業観察及び自己申告等において取組状況を把握する。	目標	70%	80%	100%	A	生徒アンケートにおいて、「本時の目標が示された」の肯定的評価80%以上	目標	70%	80%	80%	A	保護者アンケートにおいて、「学校は子どもにとって分かりやすい授業を実施している」の肯定的評価80%以上	目標	70%	80%	80%	B	「本時の目標」の提示は継続しているものの保護者への広報が不十分だった。今後は学校HP等で本取組について紹介していく。 校内研修は2回実施できた。タブレットなどのICTを活用した授業も実施することができ、理解が深まった。 校内研修は2回実施できた。他の教科での利活用の状況から改善を図ろうとする姿も見られた。またICTの活用に向けた教員が自主的に研修を企画し、実施した。				
					達成		81%	95%			達成		85%	92%			達成		71%	71%						
					目標	50%	80%	100%	A		目標	30%	80%	80%	A		目標	30%	80%	80%	A					
					達成		85%	100%			達成		85%	95%			達成		71%	80%						
生活指導・進路指導	実施する活動に対して目的意識をもち、学校生活や地域での活動を通して、生徒一人一人の達成感や充実感を味わうことによって、自尊感情を高め、個性の伸長を図る。	・社会生活に通用する基本的な生活習慣を徹底し、集団の一員としての役割と責任を果たせる生徒の育成を図る。 ・生徒同士や生徒と教師のよりよい人間関係を構築し、学校生活を充実させ自らの目標に向かって行動し成長を実感できるようにする。	いじめ防止基本方針に基づき、いじめの未然防止、早期発見、早期対応に努める。 希望学級、スクールソーシャルワーカー、不登校巡回指導員、別室指導支援員と連携し不登校の出現率を減少させるとともに、不登校生徒の学校復帰を目指す。 生徒に望ましい勤労観・職業観を身に付けさせるため、職場体験を要としたキャリア教育を再構築する。	実効のないいじめ問題対策委員会を行うことで些細ないじめを確実に認知し、解消率を95%とする。 月1回以上、希望学級、SSWと連絡調整し、正確な状況把握に努める。夏季休業明けを機やかに開始し、不登校を未然防止する。 職場体験に向けた取組として学級活動（3）と関連した学級活動の展開3回以上	目標	50%	80%	95%	A	生徒アンケートにおいて、「いじめの未然防止になる取組が行われた」の肯定的評価80%以上	目標	70%	80%	80%	C	保護者アンケートにおいて、「学校はいじめの未然防止について取り組んでいる」の肯定的評価80%以上	目標	70%	80%	80%	B	解消に向けた取組を推し進めるとともに、未然防止について取り組んでいく。 夏季休業明けの不登校出現率は上昇している。希望学級に登校するなど関係機関とつながりはあるものの、今後は登校できなかったきっかけや不登校の理由を校内委員会で共有していく。 保護者からの情報提供もあり、協力事業所100件以上開拓する。 保護者からのアンケートで次年度の受け入れ100%であった。地域で活動することを進めていく。				
					達成		82%	63%			達成		74%	68%			達成		57%	62%						
					目標	50%	80%	100%	A		目標		1.0	1.0			目標									
					達成		98%	100%			達成		△2.0	▽0.6			達成									
学校運営	学校経営計画を全教職員に周知し、主幹教諭、分掌主任や学年主任を中心としながら、プロジェクト組織の活用し、縦・横の軸の通った組織を機能させ、全教職員の参画意識を高め、活力ある学校運営を行う。	・企画委員会を通じて、各分掌間や各学年間の連携調整を図り、組織的・能動的に全体の教育課題の解決を図る。 ・風通しの良い明るい職員室となるようこころがけ、教職員の意欲が高まるよう声かけを管理職が率先垂範する。	定期的な学校運営協議会以外に、教育活動の参観の機会を設け、地域における学校へのニーズを正確に把握し、経営の改善を図る。 教職員が、心身ともに健康で職務に取り組めるよう、ライフワークバランスの実現を図り、働きやすい職場環境を整える。 東村山スマートスクール構想及びSDGsの観点から、紙ベースの資料、教材をデジタルトランスフォーメーション化する。 コンプライアンスリーダーを1名指名し、職員室内の掲示物や独自のチェックシートを偶数月に実施し意識の向上を図るためお互いの声掛けを推奨する。	目標	50%	80%	100%	A	生徒アンケートにおいて、「昨年年度よりもタブレット等で配布される資料が増えた」の肯定的回答80%以上	目標					保護者アンケートにおいて、「教職員の働き方改革が進んでいる印象がある」の肯定的回答80%以上	目標					年度当初に学校が予定していた日時に、青少対の会議などが重複して参加できない委員がいた。関係機関と連携していきたい。 教員の発案により下校時の挨拶運動を教職員で行った（11月）。定時退行は学校行事前や評価期間は難しさがある。 生徒会活動の資料は電子化できたが、学校行事については寄せ書き風の資料もあり、一部は紙配布となった。さらに電子化を進めていく。 偶数月のチェックシートはおおむね実施できている。コンプライアンスリーダーから発案される取組を今後も行っていく。	R8年度のコミュニティスクール化に向けて教育委員会とともに進めていく。 定時退行について、一部の教職員は実現が難しかった。業務の平衡化を図る。 卒業後も手元に残せることから紙ベースの資料のよさがあると生徒からの指摘があった。バランスを考えていきたい。 チェックシートについて、3学期の実現に至らなかった。コンプライアンスリーダーからの発言の機会を継続させたい。				
					達成		80%			100%	達成					達成										
					目標	50%	80%	100%		A		目標						目標	50%	70%	80%		C			
					達成		85%	85%				達成						達成		52%	46%					
特別活動・その他	集団や社会の一員として、主体的に活動に参加しようとする態度を育て、生徒の自発的、自治的な活動を充実させ、健全で意欲ある学校生活を推進する。生徒の自尊感情を高め、自己実現を目指す。	・生徒の自治的、自発的な活動のために教師の適切な指導の下、自主的、実践的な活動を行う。 ・PTA活動や青少年対策第二地区委員会、地域行事等に生徒と教職員がともに参加する。 ・通常の授業や学校行事を公開することで、本校の教育活動の理解を図る。 ・新規の地域や関係機関の外部人材を積極的に活用することで、学校力を向上させる。	生徒自らが、自分たちの話し合い活動により適切なきまりをつくりそれを守る活動により、自発的・自治的な生徒会活動を具現化する。 学級活動、学校行事、生徒会活動を充実させ、自己の役割や責任を果たし、目標に向かって努力する生徒の育成を図る。 学校の教育活動を発信するとともに、保護者会の日に合わせて授業公開を行い、教育活動への理解を深めていただく機会をもつ。	生徒会本部を中心に、生徒総会における意見具現化させる。（例：昼休みの体育館開放や校則改正など）自己申告等で取組状況を確認する。 教育活動の場で、実行委員会、係活動指導を充実させる。自己申告等で取組状況を確認する。 学校HPの更新を月4回以上行う。	目標	50%	80%	100%	A	生徒アンケートにおいて、「自分たちできまりを作って守る活動に取り組めた」の肯定的評価80%以上	目標	50%	70%	80%	A	保護者アンケートにおいて、「自分たちできまりを作って守る活動に取り組んでいる」の肯定的評価80%以上	目標	50%	70%	80%	A	校則改正に取り組めているが、髪ゴムの色の改正のため一部の生徒に当事者意識をもたせることが難しかった。 運動会、合唱コンクール、修学旅行、校外学習は実行委員会を中心に実施することができた。 HP更新に合わせてれんらくアプリで周知したことで閲覧数が増加している。	髪ゴムの色は改定できた。現在は門の利用について生活委員会を中心に検討している。今後も生徒の発案を大切にさせる。 各行事等で生徒の実行委員会を中心に実施することをしたができた。保護者に活動の状況が伝わるよう学校だよりや学校HPで周知していく。 順調に閲覧数が増加している。今後も、れんらくアプリとの共用で周知していく。			
					達成		78%	80%			達成		65%	92%			達成		85%	92%						
					目標	50%	80%	100%	A		目標	70%	80%	80%	A		目標	50%	70%	80%	B					
					達成		98%	100%			達成		76%	91%			達成		87%	77%						
					目標	100%	100%	100%	A	学校HP閲覧数毎月2500以上	目標						目標	80%	90%	100%	A					
					達成		100%	100%			達成						達成		100%	100%						

前年度の学校評価を活かして、4月時点でビジョン・ミッション、各目指す像、特に重点となる各目標、方策、指標を設定する。提出時期に応じて、その時点での達成度を%で自己評価欄に記入する。自己評価の評語は最終段階で、目標の5割未満はC、8割未満はB、10割未満はA、目標超えはO（over）の標語を記入する。